

あらき通信



2018年12月20日発行

(株)アラキ工務店 編集・発行 荒木 勇

〒 615-0906 京都市右京区梅津高畠町 52-2

Tel 075-882-8668 www.kyoto-araki.jp/

Fax 075-872-0223 info@kyoto-kozai.com

役員管掌変更を行いました これからもよろしくお願いします！

この度、当社の村上専務が70歳を迎え、当社の運営体制を見直すことになりました。村上専務は非常勤役員に、荒木智常務が専務に、米沢君が取締役になりました(右表参照)。

当社新体制(2018/11~)

代表取締役	荒木 勇
専務取締役	荒木 智
取締役	米沢 和也
取締役	村上 幸男(非常勤)
監査役	荒木 福代



そこで、11月29日、設計士さん、協力業者さん、大工さんたちと一緒に、古希のお祝いをすることになりました。

小さい会社なので、まだまだ村上さんの力は必要です。当社会長も、元気で会社に顔をみせておりますので、これからも応援よろしくお願ひいたします。

荒木 勇

研修旅行の翌日に台風21号！

毎年、大工さんたちと研修旅行を行っています。今年は、9月2・3日と、念願の投入堂と犬島へ。前者は家族ではいけないし、一人だと許可が出ないという事で、思い切ってみんなでプチ登山です。

1000年近くも前に、どうやって作られたのか今でも謎に包まれている建物。昔の大工さんの技と技術に感動します。後者は、犬島精錬所を核にベネッセがアートを展開している地域です。二日とも好天に恵まれましたが、まさかその翌日に大変なことになるとは…

アラキ工務店でもこれほど多くの台風被害を手当したのは初めてではないでしょうか。当日夕方から電話が鳴り続け、延べ300軒ちかいお問い合わせをいただきました。

なかでも、屋根瓦の被害は深刻で、弊社でも2～3週間ほぼ全員で応急手当に当たりました。本格復旧はこれからですが2年越しでかかると言われています。



：住まいについていろいろな話 第22回 「瓦」

9月に上陸した台風21号により、京都・大阪など近畿圏の建物に大きな被害が発生しました。今回は、もっとも被害が大きかった瓦について少しお話をします。

瓦と一口で言いますが、材質・産地・形状・用途に応じて数多くの瓦があります。全部は紹介しきれないので主要なものを以下に。

材質：粘土瓦（釉薬瓦　いぶし瓦）　スレート瓦　セメント瓦 等

京町家や木造住宅ではほぼ粘土瓦です。粘土瓦は耐用年数40～60年で、スレートやセメント瓦はその約半分です。またスレートやセメント瓦は表面が塗装してあるので、15年位で塗替えの必要があり、これを怠ると水が染込み冬季に凍つて割れの原因になります。

産地：各地に地場の瓦がありますが、三州瓦（愛知県）・淡路瓦（淡路島）・石州瓦（島根県）がトップスリーでほぼこの瓦を使っています。京都にも京瓦がありますが社寺仏閣がほとんどです。



いぶし瓦

三州瓦・淡路瓦はいぶし瓦ですが石州瓦は釉薬瓦で表面がツルツルです。これは雪の多い地方用で、京都市内ではほぼ使いません。よく言われるのが『石州瓦は老ノ坂を越えて来ない』石州瓦は亀岡までが使う瓦で、京都市内ではほぼ使いません。雪はよく降っても10cmほどなのでいぶし瓦で十分ということです。

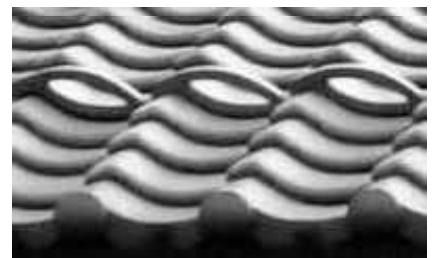


スレート瓦

大きさ：普通の大きさで 64瓦 56瓦 53瓦とあります。この数字は一坪面積に何枚必要かで大きさを表しているので数字が大きくなるほど瓦は小さくなります。京町家の古い瓦はほぼ64瓦です。最近は葺き替えでは56瓦もよく使います。

もっと小さな、100枚判とか80枚判とかもありますが、庇等目線の近い部分に使います。

瓦葺の費用は瓦が小さいほど手間がかかるので高くなります。



雪止

雪止：雪止瓦は京都市内ではほぼ使いません。お隣に迷惑をかけるようなところでは多少使いますが、京都特有のムクリ屋根には合いません。

石州瓦には使います。表面がツルツルなのでたくさん雪が降ると自重で落ちるので止めているのでしょうか。しかしこれ雪止めのところで夜間雪がカチカチに凍りまるで堤防のようになり、あくる日に日が昇ると雪が解け水に戻り堤防の内側に水がたまり瓦の隙間から屋内に水が入り込む原因になります。

多雪地帯では瓦屋根から水が回るのは普通だと聞いたことがあります。

葺き方：30年ぐらい前まではほぼ土葺でした。ひとつの理由として屋根は重いほうが台風等の強風で飛ばないとわれていました。しかし阪神淡路大震災の後、屋根は軽いのがよく、耐震性能もよくなるのでと引掛棟瓦が主流となり今はほぼこれで葺きます。今回の台風でも引掛棟瓦の屋根はほとんど被害に会っていません。

しかし長所はまた欠点もあります。葺き土がなくなることで屋根の断熱性が土でまかなわれていたのになくなり、別途断熱材の施工が必要になります。典型は蔵ですね、蔵は夏でもひんやりしているのは屋根に大

量の土が乗っているので、これが断熱性を保っているのです。

何かレポートのような文章になりました。古い京町家の建物に行き、瓦の相談をしているときに、おうちの方に「ところで前回の屋根葺き替えはいつ頃でしたか」とお尋ねしても、「え~と、私が嫁にきてからは無いです」と言われるおばあさんが80歳近くだったりする。

そうすると、少なくとも50~60年以上昔のことになります。その場合は、「もう限界なので葺き替えをお勧めします」とお伝えすることが多いです。しかし瓦って太陽と雨と寒暖にさらされているのに、長く持つものだと感心します。

村上 幸男

ドライフラワーと小さなCAFEの店



←完成写真

↓工事前写真



東山鹿ヶ谷通に永観堂入口があり、それをすこし北に歩くと『哲学の道』の石碑があります。その石碑の北東角にある建物です。

外観写真は、人が一杯なので、写真が撮りにくかったです。屋根はそのまままで、外壁は焼き板です。梁や柱を一部傷んでいたので交換しています。入口は木製の引き戸、2階の格子は、木格子です。建物の北側は、琵琶湖疎水の支流が、流れています。

←1F店内写真

内外装は、お客様が考えられたデザインです。店内は、ドライフラワーが飾られています。とてもきれいです。

お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

荒木 智

ドライフラワーの販売とコーヒーの店

Flower Green Days

紹介ページ

flowergreendays.jimdo.com



京町家 出格子 改修

町家の出格子の幅を切り縮めるという特殊な工事のご用命を頂きました。

最初からそのような難しい工事に挑戦しようと思ったわけではありません。工事全体の間取りを検討していた際に、お客様の望まれる改修案にするためには、どうしてもこの工事が必要不可欠だという結論に至り、計画がスタートしました。

出格子といいましても普通の出格子ではなく、写真にあるように腰石に載った出格子なので、必然的に腰石ごと切縮め(約1m)なければなりません。

▶ 腰石の重さは何キロあるのか？

一番気がかりでした。

重さに応じてどのように持上げ、移動し、カットするかについて検討するのですが、実際に石の断面寸法を確認できるのは解体工事が済み、出格子の足元廻りがあらわになるときまでお預けです。

そのためお客様へは事前に、如何に難しい工事であるか、如何にリスクが高いか、などの不安要因をしっかり説明した上での着工とさせていただきました。

▶ 石が割れないように！

石屋さんとも綿密な打合せを行い、いざ工事が始まるとな、大工さんとの連携もスムーズに行うことができ、最も懸念していた作業中に石が割れることもなく、無事に工事を納めることができました。

お客様にも大変お喜び頂き、この現場最大の難関を乗り越えることができました。このような工事を皆でやり遂げた後の達成感がなんとも心地良かったです。

また機会があれば、難易度の高い工事にもチャレンジしたいです！

米沢 和也



写真1：現況



写真2 腰石持上げ



写真3 完成

度重なる自然災害を受けて

平成最後の夏から秋に掛けて6月18日に大阪府北部を震源とした【大阪府北部地震】を皮切りに、京都府下全域が度重なる自然災害に見舞われた。

順に列記すると、

- ①【6月18日：大阪府北部地震：震度5弱（京都市）】
- ②【6月28日～7月8日：平成30年西日本豪雨】※激甚災害指定
- ③【7月29日：台風12号（迷走台風）】

- ④【8月24日：台風20号】※激甚災害指定
- ⑤【9月4日：台風21号】※激甚災害指定
- ⑥【9月30日：台風24号】※激甚災害指定

約4ヶ月の間に上記6回災害に見舞われた。また、6つのうち4つの災害は【激甚災害】に指定されるほどの大災害である…。これほどの災害が【忘れる前に】やってきたのは近年では記憶にない。また、今年

は災害レベルの酷暑に見舞われたことも忘れてはならない。

幼いときより『京都は災害が少ない』という何の根拠もない『都市伝説』を信じて育ってきた者として、今年の連続災害はよい教訓となった。今後も毎年ではないとしても、3年に1度は『平成30年台風21号(930hPa)』程度の台風や、『1時間に50mm程度の豪雨』は来るものだと胸に刻み、設計・施工活動に従事してゆきたい。

最後になりましたが、現在『仮復旧』で我慢頂いている施主様方に対し、出来るだけ早期の『本復旧』ができるように手配してゆきますので、ご理解頂きます様お願い申し上げます。

小野 敏明



新人監督なので すべてが勉強です

昭和40年代に建てられたお屋敷の改修工事が始まりました。過去の何度も改修で小さく区切られ、合板やビニルクロスで覆われていた2階の壁、床、天井を全て解体すると、立派な骨組みの大空間が現れました。

柱や梁に残った釘を一本一本抜き、天井裏の掃除をし、大工さんの手によって長年の垢を落とされた民家は、久しぶりに外の風を受け、気持ち良さそうです。

大工さんが竹を削って木片を作っています。1階の座敷の竿縁天井には、天井板の重ねに隙間が空かないよう、イナゴという竹を削っ



いなごの正体



小屋裏の大空間

た木片を指し込んだ細工がしてあり、抜け落ちたイナゴを留め直しているのだそうです。確かにイナゴに似ているなあと思うと同時に、それで竿縁天井のことをイナゴ天井と呼ぶのかと、心の中で「ガッテンガツテン」。新米監督なので、全てが勉強です。

改修工事をしていると、見積書には載っていない仕事がたくさんあると言いますが、これもその一つでしょうか。

これから、下屋の断熱材の敷き込み、天井の吊り直し、古いガイシ引き電気配線の交換など、今だからこそできることを行い、来年の竣工に向けて、大工さんと一緒に頑張っていきます。

長崎 道

キッチンの改修工事

入社して初めて担当した仕事は、キッチンの全改修工事でした。

以前から弊社で工事をさせていただいている南丹市のI様。お施主様のご要望に沿うようにプランニングし、打ち合わせを行います。他の部屋や外壁の改修も追加になりました。

4月の初めての現場調査から3か月、7月から工事着工となりました。ここからは大工さんと打ち合わせの毎日。材料発注、現場に入れるタイミングや細かい納まりまで沢山考えることがあります。大工さんによくしてもらって助かりました。

他業者さんとも打ち合わせと工事日程を調整します。キッチン改修は設備関係が多いのでやらなければならないことが沢山あります。工事も軌道に乗ってきた終盤にちょっとしたハプニング発生。台風20号被害により蔵の軒天が落下してしまい

急遽修繕工事も。

何とか8月末で無事竣工。すこくきれいになりお施主様にも大変喜んでいただきました。断熱工事もしっかりしたことでも冬でも暖かい。断熱材とペアガラスに期待です。しかし、竣工後に台風21号被害で改修していない箇所から、雨漏りが…。また修繕工事させていただきます！

お施主様に喜んでもらえたい仕事ができました。頑張った甲斐がありました。これからもお施主様を笑顔にできるように精一杯頑張ります。

大久保 朋彦



季刊『民家』に寄稿しました！

日本民家再生協会(JMRA)が発行する機関紙です。なんと、2000文字も！

京町家の現状を書いてほしいと言われ、いい加減なことが書けないので頑張って勉強しました(^^♪)



大工技能士

大工と監督の3名が1級を目指して、遅くまで勉強しています(監督って誰？)。

足達君が教師になつて教えています。職業訓練校で試験監督をやつてゐるので、ポイントばっちりです。



三谷くんが結婚しました！

おめでとう！新婚旅行はハワイでした。

今も、亀岡の現場を担当してもらっていますが、旅行中も順調に進んでいます。



編集後記

初めて社長自ら、編集しました(笑)。

今年は台風のおかげで1年が早いです。その中で、新人監督二人が頑張ってくれて大助かり。早く育つてほしいです。皆さんのお宅にお邪魔したときは、是非暖かく迎えてやってくださいね！

荒木 勇